

〔学部部門〕

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善		
小学部	(1)	ア	個別面談や保護者会, 毎日の連絡帳などを通し, 児童や保護者の教育的ニーズを十分に把握し, 医療機関・福祉機関との連絡ノートやケース会議等を有効に活用して連携を図り指導に生かしていく。	1-② 2-② 4-③④	B	・実態に応じた学習集団の編成, 話し合いによる効果的な授業計画作成を意識し, 継続して行っていく。 ・学習内容, 学習グループの作り方等を検討し, コロナ感染症に対応しながら個の目標を達成できる支援方法を検討していく。	
		イ	個別の教育支援計画や指導計画の作成, 学年会・グループ会・合同授業の話し合いなどを通じた教職員の共通理解のもと, 個に応じた指導の充実に努める。(教科の内容・系統性を踏まえた指導, 教材教具の工夫, 実態や課題に応じた学習形態の設定と連携のとれたT・T指導の充実, 自立活動メニュー表・ICTの活用など)	1-①② ③④	B		
	(2)	ア	教室や廊下の整理・整頓, 教材室(教材置き場)の安全確認を定期的に行い, 危険箇所の早期発見や改善をしていく。学部内でヒヤリハットの情報共有をし, 学校事故の防止に努める。	2-①	B	・コロナ感染症の状況の中で, 外部専門家の有効な活用方法について, 係と相談し, 有効なものにしていく必要がある。	
		イ	連絡ノートや外部専門家相談の活用, 連絡協議会等を通して, 保護者や医療機関, 各施設や計画相談員等と連携を図りながら, 健康で安全な学校生活を送れるようにする。(摂食指導の連携, 健康状態の把握, 自立活動の指導・緊急時の対応など)	2-①② 4-③④	C		
	(3)	一人一人の良さを尊重し, 豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	ア	児童一人一人を認め, 自信や自尊心を育んだり, 様々な体験学習を通して経験を増やしたり, 感性を引き出したりできるよう, 指導方法を探求する。	1-② 4-②	B	・今後, ICTの活用を含めて, どのような交流の方法があるのか, 交流係, 交流先とも話し合いながら検討していく。
			イ	各種交流活動や合同学習などを計画的に実施し, 人とかかわる力や豊かな心を育成する。(地域交流, 学校間交流, 居住地校交流, さわやかマナーアップ運動, 花いっぱい活動, なかよしタイム(異学年交流), 他学年との合同学習など)	3-①② ③④ 4-②	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
中学部	(1)	生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握するとともに、個に応じた指導内容や方法を工夫し、授業改善に努める。	生徒の指導・支援方法について共通理解を深め、個に応じた学習や活動を工夫する。 実態に応じた教育課程・グループを編成する。	1-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学部職員で生徒の指導・支援方法についてさらに共通理解し、個に応じた学習や活動を工夫をしていく。 ICT機器を使った学習の充実を図り、教員がさらに活用できるように研修をすすめていく。 各教科の系統性を踏まえた学習内容の見直しを行っていく。 より特別な支援を必要とする生徒への支援として、今後も、早めにケース会議を実施していく。
			系統性を踏まえた学習内容を見直し、ICT機器活用の充実を図る。 より特別な支援を必要とする生徒の支援としてケース会議の活用を図る。	1-③ 4-②	C	
	(2)	健康で安全・安心な学校生活を送れるように環境を整えながら、健康の維持、体力の向上に努める。	整理・整頓を心がけ、学習や活動しやすい環境整備に努め、事故の未然防止に努める。	2-①	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全面への配慮をするために、さらに教材の精選や収納場所の工夫を行っていく。 今後も保護者や主治医・看護職員・養護教諭との連携を図っていき、さらに生徒一人一人に応じた自立活動を行えるよう工夫していく。
			保護者や主治医・看護職員・養護教諭との連携を図りながら、一人一人に応じた自立活動を行えるよう工夫する。	1-② 2-②	B	
	(3)	児童一人一人の良さを認め合い思いやりの心を育みながら、主体的な生活態度の育成に努める。	社会生活のルールやマナーを意識させるとともに、学級活動等で自主的・主体的な活動場面を設定する。	1-④ 3-①	B	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なことについても少しずつ挑戦する姿勢を育むための場面設定を行っていく。 今年度は、下妻中や地域の方との交流や校外学習、修学旅行等を行うことはできなかったが、代替の授業や作品交流を通して、かかわりをもつことができた。今後も生徒の実態に応じた内容・活動になるよう場の設定をしていく。
			遠足、修学旅行、校外学習、交流及び共同学習などにおいて人とのかかわりを深めるとともに、経験を深め広げられるような学習内容・活動の充実を図る。	3-④ 4-②	C	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善		
高等部	(1)	ア	個別面談や相談の中で、生徒一人一人の教育的ニーズや課題を把握し、卒業後の自立と社会参加のため保護者と連携し、個別的教育支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し支援に努める。	1-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や技能を有する教員及び外部専門家の指導・助言の活用を通し、一定のレベルで共通した支援ができるような取り組みについて主任会で検討し、学年・グループ会にて情報を共有していく。 ・臨時休校もあり、生徒の実態を十分把握して個別の指導計画を作成する難しさがあった。 ・ICTをもっと活用できるよう、環境設定や研修をすすめていく。 	
		イ	個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づき、学年会、学習グループ会等で課題を明確にして、指導内容の整理や支援について共通理解を図る。また、指導にあたってはICTの適切な活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	1-①②③	C		
	(2)	ア	教室、グループ室、廊下等の生活環境の整理整頓・清掃を心がけるとともに、教材教具の点検を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	2-①	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学部全体で、教材・教具をうまく活用できるよう、教材室の整理整頓を行っていく。 	
		イ	一人一人の生徒の実態を十分に把握し、支援方法についての共通理解を図る。また、保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図ることで、適宜生徒の健康状態を把握し、個や状況に応じた学習や活動を工夫し、健康や体力の維持・増進に努めていく。	2-②	B		
	(3)	自己肯定観を育むとともに、他者の良さを認め、思いやる等の豊かな心の育成を図る。	ア	自己選択・自己決定の力を高める指導を重視し、学習場面及び学校生活全体を通して、様々な場の設定をするとともに、主体的に活動する時間を設定していく。また、実生活に結び付く体験学習を通して、成功体験を積み重ねることで、主体的に生きていこうとする態度の育成に努める。	3-①②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ課程の生徒では、画面を通じての交流には難しさがあったので、交流方法について、引き続き、学習グループ会にて検討を行っていく。 ・作業班の販売ができる機会を設定していく。 ・進路や卒業後の生活について、保護者がイメージをもてるような情報の提供を継続的に行っていく。 ・新しい生活様式に合わせた交流の仕方を継続して検討していく。 ・感染症予防から集団活動や、より体験的な活動の場が制限されたため、十分に行うことが難しかった。次年度は、感染症対策をしたうえで、体験の場を増やしていきたい。
			イ	様々な交流活動や集団活動の場の経験を通して、集団生活のルールやマナー、自己と他者とのより良い関係作りを意識できるような内容・活動の充実を図る。	3-①②③④ 4-②	C	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
訪問教育	(1)	児童生徒一人一人の実態把握に努め、個に応じた指導のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。	他校と情報交換をしたり、研修会に参加したりすることで、指導内容や教材教具、授業の組み立て方法等について研修し、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。	1-①② 3-③	C	C 次年度からはオンラインで他校との情報交換ができるよう、他校と連携を図っていく。 複数訪問を行うことは難しかったが、担当者間で児童生徒の実態・情報を共有し、より実態に即した学習内容・教材研究に努めることができた。引き続き担当者間で共有を図っていく。
			複数訪問を行い、児童生徒のより確かな実態を把握し、活動の幅を広げる。	1-①② 3-③	C	
	(2)	健康や安全に配慮しながら授業を行い、児童生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	表情や呼吸状態、酸素飽和度等を確認・観察し訪問時の体調を的確に把握する。必要に応じて毎日の健康観察の様子を記録しておく。	1-①② 2-①②③	B	B 必要に応じて毎日の健康観察の様子を記録したり、一週間の様子や服薬状況等を保護者に聞くなどした。今後も個のニーズのあわせて健康状態の把握に努めていく。 睡眠時間や注入時間がずれる児童生徒に関してはそれに 応じて授業内容や順番を変える等、臨機応変に対応した。 今後も、そのように対応していく。
			その日の体調に応じて授業内容を組み立てる等臨機応変に対応する。	1-①② 2-①②	B	
	(3)	所属学部学年との連携を図り、共通理解のもとでスクーリングや映像での交流を行い、友だちや集団を意識できるよう努める。	学部会等で訪問教育生の実態や近況報告・連絡・相談をし、理解を深める。	2-①② 3-③ 4-④	B	B 学部をまたいで担当している場合、児童生徒の様子を詳しく報告することが難しい等、不都合なことがあった。情報共有の仕方について、書面等で行うなど工夫をしていく。 訪問生同士の交流(集団スクーリング)の希望が一部の保護者から出ているので、来年度は各家庭に働きかける。感染症防止のためオンライン実施の可能性も検討する。
			学年やグループへのスクーリング参加については事前に所属学年と密に連携を図りながら、訪問生と通学生がかかわりをもてるような内容にするために十分な打ち合わせを行う。また、無理のない活動を実施する。	2-①② 3-③	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
1年	(1) 児童一人一人の興味関心や教育的ニーズを把握し、保護者や各種関係機関と連携を図りながら、個に応じた指導の充実に努める。	ア 個別的教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTを積極的に活用し教育活動に取り組む。	1-①②③	B	B ・学年で共通理解を図りながら支援に取り組んだが、グループが異なる児童について、細かなところまでの把握は難しいという課題があり、情報共有の仕方について、引き続き検討していく。
		イ 各グループ・学年の学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	1-②④	B	
	(2) 児童の十分な実態把握のもと、健康や安全に配慮した生活環境の整備に努め、児童の健康や体力の維持・向上に努める。	ア 登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	2-②	B	C ・コロナの影響もあり、リハビリが難しい医療機関もあるため、連絡ノートを保護者に確認すると同時に医療機関に送付できるよう、関係係と検討をすすめていく。 ・教室環境で、加湿については教室の広さから、ある程度の湿度に保つことが難しい。工夫をしている学校・施設の情報を収集する。
		イ 保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②	C	
		ウ 児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度、安全面に配慮するなどの教室環境を整え、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	2-①②③	C	
	(3) 一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	ア あいさつや呼名等、身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、新しい場所や人とかかわりに慣れるよう、異学年、異グループでの学習場面を設定する。	3-③④	C	B ・新しい非接触型の人間関係を築く支援方法についても検討していきたい。
イ 人とかかわりの基礎を養い、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。		3-③④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
(1)	児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTの活用(PCやタブレット端末等)による教育活動を図る。	1-①②③	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もICT機器を有効活用していく。 ・今後も学習の記録を継続し、課題にあった支援に生かしていく。
		各グループ・学年の学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	1-②④	B		
2年	学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。	登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や排せつや睡眠等の生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	2-②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・発作の様子が変容している児童が2名いるので、今後も保護者や連絡ノート等で医師と連携しながら安全に学習に参加できるようにしていく。 ・学期の始めやマニュアル変更時等、医療的ケア、座薬挿入マニュアルをきちんと確認する機会を作り、緊急時に備えられるようにしていく。 ・今後も感染症予防のため、児童同士の距離を配慮したり、共通して使用する教材の消毒の徹底等、教員同士や保護者に協力を求めながら共通理解して行っていく。
		保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアや緊急時の対応については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②	B		
		児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	2-①②③	C		
(3)	友だちや教師等、人とのかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、コミュニケーションの基礎を養う。	朝の会やレクリエーション等で身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、なかよしタイムやグループ学習等、異学年、異グループでの学習場面を設定する。	3-③④	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防を意識し、安全に友だちを意識できるような活動を設定する。
		気持ちや要求を自ら表現したり、伝えたりできるよう、教材教具や支援の方法の工夫をする。また、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。	3-③④	B		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1)	児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画・指導計画、年間指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた指導・支援を実践する。ICTを活用した学習活動を実践する。	1-①②③ 3-①⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握や保護者のニーズについて、客観的な検査スケールを実施して適切な指導・支援を実践していきけるとよい。 ・感染症対策を徹底しながらも、より柔軟に学年全体で児童の支援・指導を行えるようにする。
			学年会やグループ会で児童の学習の経過や成果について情報交換し、支援・指導の方法について共通理解を図る。また、共通の記録方法を用いて児童の学習評価を行い、個々の目標達成や課題解決に向けた支援・指導を実践する。	1-②	C	
	(2)	保護者や関係機関との連携を図りながら、学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	登校時に連絡帳や保護者から体調を聞き取ったり検温やパルス計測、表情の観察をしたりして、児童の体調を十分に把握する。	2-②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入院、手術や心身の状態によって学校生活のリズムが崩れてしまった児童については、保護者との連携をより慎重に図るとともに、必要に応じて関係機関との情報共有を適切に行っていく。
			保護者や医療・福祉等の関係機関と連携ツールを積極的に活用して連携を図りながら、児童の心身の様子を把握し、健康の保持増進に努めていく。また、医療的ケアや緊急時の対応については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるようにしていく。	2-①② 4-④	C	
			児童が健康・安全に過ごせるように室内の温度や湿度等の調整をしたり、教室備品の整理整頓を心がけたりして、健康に安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②③	B	
	(3)	集団生活の中での人とのかかわりを大切にしながら、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。	あいさつや呼名、ふれあい遊び等をおして身近な人を意識できるように、友だちや教師とかかわる場面を多く設定する。また、なかよしタイムをはじめとした他学年の児童や教師などと交流する学習場面も設定する。	1-② 3-①④ 4-②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・3密の回避を念頭に置いた集団生活のあり方を引き続き構築していく。
			友だちや教師とかかわりながら、感じたことを表出したり、自分の気持ちを表したりできるよう、発声や身振りを促す支援をする。また、教材・教具の工夫やICTを活用しながら、教師が手本を示して自分の気持ちを表現したり相手の気持ちを受け止めたりできるよう支援する。	1-①②③	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
4年	(1)	ア	複数の教員による情報収集, 多面的な実態把握に努め, 個に応じた教材, 教具の工夫, 学習環境の整備を行う。また, 個別面談時には個別の教育支援計画, 指導計画について共通理解を図る。	1-①②③ ④ 4-④	C	・休校に伴う対応に追われ, 全員の個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づく自立活動メニューでの個々の細かい学習方法についてまでは教員全員での共通理解を図ることができなかった。次年度は, 共通理解を図る場を設定していく。
		イ	学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果, 変化について情報交換をし, 支援方法等の共通理解を図る。また, 記録表の工夫を図り, 学習の記録を行う。	1-①②③ 2-②	B	
	(2)	ア	保護者や寄宿舎との連携を密にし, 連絡帳や登校時の聞き取り等で児童の体調を確認したり, 検温や酸素飽和度の測定, 表情や発作の様子等の観察, 記録を行い, 児童の体調を十分に把握する。	1-④ 2-①②	B	・緊急時マニュアルや自立活動メニューについて, 速やかに新たな今年度版を作成することは難しかったので, 計画的に作成できるよう, 教員間で協力していく。 ・外部専門家相談で医療機関と連携を取りながら健康状態の把握に努めたが, コロナ感染症予防対策で定期通院やリハビリ通院の回数が減っており連絡ノートの活用には至らなかったため活用方法について検討をすすめていく。
		イ	連絡帳や連絡ノート等を通して, 保護者や医療機関と連携を図りながら, 児童の身体や健康の様子を把握する。また, 医療的ケアや座薬の挿入等については, 保護者を通して, 医療機関と連携を図り, 安全に配慮して, 円滑に行えるよう進めていく。	1-②④ 2-①② 4-④	C	
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり, 備品の整理整頓を心がけ, 安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②③	B	
	(3)	ア	友だちや教師を意識したり, 自分の気持ちを伝えたりすることができるよう, あいさつや呼名, 手遊び歌やふれあい遊び等の, 人とかかわりの場面を多く設定する。また, なかよしタイムで他学年の教師や友だちとのかかわりを持ち, 交流の充実を図る。	1-② 3-①②③ ④ 4-②	C	・感染症予防のため, 児童同士が直接触れ合う場面を設定することは難しく, 今後については, かかわり方や場面の設定を工夫をしていく ・タブレット端末を用いて, 人とかかわる学習場面を設定できたが, 回数が少なかったため, 継続して行っていく。
イ		興味・関心のある教材・教具のやりとり等, 友だちや教師とかかわる場面を設定する。教材・教具の工夫やICTの活用をし, 発声や身振りを促す支援をする。	1-②③ 3-①②③ ④⑤	B		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
5年	(1)	ア	複数の教員による情報収集, 多面的な実態把握に努め, 個に応じた教材, 教具の工夫, 学習環境の整備を行う。また, 個別面談時には個別の教育支援計画, 指導計画について共通理解を図る。	1-①② 2-②	B	・学習内容によって 集団での活動のやり方を十分検討し進めていくようにする。
		イ	学年会やグループ会, 合同授業の話し合いで児童の学習の経過や変化について情報交換をし, 支援方法等の共通理解を図る。また, 学習の記録を行い, 共通理解に活用する。	1-①②③	B	
	(2)	ア	健康で安全に過ごせるように, 連絡帳や登校時の聞き取り等で児童の体調を確認する。検温や酸素飽和度の測定, 表情や発作の様子等の観察, 記録を行い, 児童の体調を十分に把握する。	2-①②	B	・連絡ノートを活用し, 医療機関との連携を図り, 自立活動の課題の見直しを行う。
		イ	連絡帳や連絡ノート等を通して, 保護者や医療機関と連携を図りながら, 児童の身体や健康の様子を把握する。また, 医療的ケアや坐薬の挿入等については, 保護者を通して, 医療機関と連携を図り, 安全に配慮して円滑に行えるよう進めていく。	2-①②	C	
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように教室環境を整えたり, 備品の整理整頓を心がけ, 事故防止に努め, 安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②	B	
	(3)	ア	集団を意識したり, 自分の気持ちを伝えたりすることができるよう, 個に応じた丁寧なかかわりを行う。学級活動やⅡ課程Ⅲ課程合同授業を設定する。また, なかよしタイムや学部の行事等において, 他学年の友だちや教師とのかかわりの場面を設定する。	3-①②③④ 4-②	C	・コロナ感染症の対策を取りながら, 友だちや教師とのかかわりがもてる取り組みを検討する。
		イ	写真や絵カードや具体物等を活用し自己選択したり, 興味・関心のある教材・教具を活用してのやりとりをする場面を設定する。また, 音声教材やタブレットなども有効的に活用していく。	1-②③ 3-①③	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
6年	(1)	児童一人一人の障害の特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。	複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。	1-①②③ 2-②	B	・授業の様子は一部分ではあるが写真を提示して説明をすることはできたが、授業中に記録写真を撮ることが難しい状況が多かったため、体制づくりについて検討をしていく。
		学習の経過や変化について、記録を基に学年会やグループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図り学年の教員全員で支援できるようにする。	1-①② 2-①②	B		
		個別面談時には、保護者に学校での様子を写真や動画を活用しながら説明することで、個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。	1-①② 2-②	B		
	(2)	保護者や関係機関との連携を図り、健康や安全に配慮し、児童の実態に応じた生活習慣の確立を図る。	体調や生活上の変化について保護者との連携を密にし、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	2-①②	B	・リハビリ通院が減り、連絡ノートを使用している情報交換は難しかったため、情報共有の仕方について検討をしていく。
			外部専門家や連絡ノートの活用を通して、保護者、関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容、支援方法の充実に努める。	1-①②③ 2-①② 4-④	C	
	(3)	集団活動の中で人のかかわりを大切にし、コミュニケーション力を高めることができるようにする。	学級活動やなかよしタイム等において、友だちとかかわる場面を多く設定し、集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように支援する。	3-①③④	C	・感染症対策のため、制限はあったが、なかよしタイムを2回実施することができたため、今後も実施方法等の工夫していく。
			活動を予測したり、期待をもたせたりするために、手がかりとなるもの(絵カード・音声言語・動き・感触等)を検討し、意図的に活用する。	1-①②	B	
			具体物、写真、絵カードやスイッチ、タブレット等のICT機器を活用して、児童が自己選択できるようにする。また、表情や発声、視線、動作での意思表出を教師が相手に伝えたりすることで、楽しくコミュニケーションをとることができるように支援する。	1-①②③ 3-①③	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	I (1)	児童一人一人の実態に即した授業内容・展開を工夫したり、教材・教具を用意したりして、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	ア 児童の実態を的確に把握し、体験的な活動を取り入れた学習の機会を多く設ける。また異グループ合同で学習する時間を設定し、他者とのかかわり方を学び、身につけられるようにする。	1-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は感染症対策のため密を避け、合同授業を設定することが難しかった。次年度も感染症予防に気を付けながら、他者とのかかわり方を学ぶ機会を多く設定、計画、実施していく。 ・児童の興味関心を引き出すため、積極的に活用の場面を増やしていく。 ・児童の実態に応じて、苦手分野や補充が必要な分野のポイントを絞れるように、授業記録を適宜とっていく。
		イ 基礎基本の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、学校図書やICT機器を利用した学習を多く行う。	1-②③ 3-⑤	B		
		ウ 定期的に学習の習熟度を確認し、既習内容の復習を行う。	1-②	C		
	(2)	安全な学校生活を送るとともに、体力の向上と身の自立を図る。	ア 体育や自立活動を通して、健康の維持・増進に努める。	2-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教室間の歩行移動、家庭でできるストレッチなど、短時間でも継続して体を動かす機会を設定していく。
		イ 体育や自立活動において、体力の向上や身の自立のための動きの習得や、身体を動かす仕組みについての理解を深める場面を設ける。	1-①② 2-②	B		
	II (1)	体験的な活動や様々な学習活動を通して、生活に必要な知識や技能を身につけ、自ら考え行動する力を育てる。	ア 児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。	1-①②③ 2-①② 3-①③④ ⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、校外学習等の体験学習に関して制限があった。各グループ、校内で様々な体験学習を行ったが、実際の場面での体験ができることよい。今後の状況により、他の方法や方向性を考えていく。 ・さらに児童の実態を共通理解できるような話し合いができるよう学習場面を検討していく。
			イ 自立活動や他の教科と関連付けたり、定期的にグループ会を持ち教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。	1-①②③ ④ 2-①②	B	
		あいさつや返事など基本的な生活習慣を確立するとともに、周りの人とやりとりする力を培う。	ア 学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とのあいさつを交わす場を大切にするとともに、学習場面や合同生活単元学習等においても、多くの人とかかわることができるように、異学年との交流を定期的に設定する。	1-②④ 3-①③④	B	
	(2)	イ 児童の実態に応じて、サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用し、繰り返し学習することで定着を図っていく。	1-①②③ ④	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	ア	様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫する。	1-① 1-②	B	・今後も、実態把握を行い、個の課題に応じた支援をしていく。また、丁寧なかかわりを行い、児童の気持ちを引き出すような授業を行うよう取り組んでいく。
			イ	気持ちを表した際には、共感するような言葉をかける。また、必要に応じて他学年との交流や合同授業を設定する。	1-①	B	
	(2)	ア	こまめに健康観察を行い、教師間で情報を共有して、適切な対応を行う。	2-① 2-②	B	・感染症の影響があり、連絡ノートを十分に活用することができなかったため、情報共有の方法について、検討をしていく。	
		イ	連絡帳や連絡ノートを通して家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。	2-②	B		
特別の教科「道徳」	(1)	学校の教育活動全体を通じて、道徳的価値(人間らしさ)の自覚を深め、自分の生き方について考えとともに人間としてよく生きていくための道徳的実践力を育む。	ア	道徳的価値の自覚を深めるため、児童の実態や発達、特性に応じ、魅力的で身近な題材を取り入れたり、自己を見つめる機会を作ったりするなど、教材や場面設定の工夫をする。	1-② 3-③	C	・教科書での学習に加え、日常生活場面等でも、身近な題材を設定する場面を設け、道徳的価値を高められるようにしていく。 ・課程で一人しかいない場合など、児童の実態に合わせて合同授業をしたり、県内の特別支援学校と情報機器を使った意見交換をしたりなど、様々な意見を聞いたり、話し合ったりする機会を設定していく。
			イ	道徳の時間の指導にあたっては、児童が自分への問いかけを深め、自分の未来や希望をもつことができるように、話し合い活動や体験的な活動を多く取り入れるようにする。	1-② 3-③	C	
特別活動	(1)	集団生活を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としての意識をもちながら、自分の役割を果たそうとする自主的、実践的な態度を育てる。	ア	学級活動や専門委員会などの活動において、一人一人の実態や希望に応じて、活動内容や役割を設定し、主体的に活動に取り組めるように支援する。	3-①④	B	・専門委員会について、今年度は参加する児童がいなかった。来年度も参加する児童が少ないことが考えられるため、活動内容を検討したり、学級活動をより充実させていく。 ・来年度も感染症の予防をしながら、より充実をはかるために内容について検討していく。 ・児童一人ひとりの学級活動での役割を具体的に設定し、目標に取り入れながら評価を行っていく。
			イ	専門委員会や学部行事など、他学年との集団活動の場を積極的に設け、お互いの存在や良さに気付いたり、自分の役割や係の仕事を自主的に行ったりしようとする態度を養っていく。	3-①③	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
自立活動	(1) 関係機関と連携し、外部専門家相談や文書等での情報交換をし、適切で根拠ある自立活動の指導の充実を図る。	ア 「自立活動を行うにあたって」や「連絡ノート」など、医療機関からの情報を得るツールを保護者との共通理解のもとに活用し、医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換を密に行う。個別の指導計画や個々の自立活動メニューの目標や課題の共有を図ったり、振り返りの機会を設けたりする。	1-①② 4-①②④	C	C ・コロナ禍により、児童のリハビリ通院の機会が減ってしまい、文書でのやり取りが少なくなり、情報共有ができないことがあったため、情報共有の仕方について検討していく。 ・自立活動メニューの作成については、作成者や作成期間、内容について、係と連携しながら検討をしていく。
		イ 各児童生徒の担当セラピスト等の関係機関との連携を図りながら、必要に応じて、外部専門家(PT, OT, ST)相談を活用し研修を深め、指導の充実に努める。	1-①② 4-①②④	B	
総合的な学習の時間	(1) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。	ア 各教科と関連づけながら、様々な体験活動を取り入れたり、友だち・教師、地域の人とのかかわる場を設定する。	1-②③ 3-① 4-②	C	B ・次年度はNHK for schoolを活用し、プログラミング的思考を身に付けられるように計画、実施していく。
		イ 問題の解決や探究活動に当たっては、図書室の活用やタブレット端末等の情報機器を活用し、自分で調べてまとめることができるよう環境を設定していく。	1-③ 3-⑤	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	生徒の実態や障害の特性, 教育的ニーズを的確に把握するとともに, 個別の教育支援計画及び指導計画に基づき, 個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し, 授業改善に努める。	一人一人の障害の特性や実態, 教育的ニーズを把握し, 必要に応じて保護者や関係機関と連携を図りながら, 個別の教育支援計画・指導計画を作成し, 個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 2-② 3-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の教員ともより一層連携し, 生徒の実態や指導方法等について共通理解を深めていく。 ・新学習指導要領の内容を踏まえた指導・支援ができるよう, 各教員が研修を行っていく。
		生徒一人一人の指導・支援内容について, 連絡帳や連絡ノート等を活用して, 保護者や関係機関と共通理解を図り, 適切な指導・支援の在り方について連携・確認を取りながら進める。	1-①② 2-② 3-①②③	B		
		学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら, 日々の授業実践の工夫・改善に努める。(略案の工夫, RPD CAサイクル, 合理的配慮, ICTの活用, T・T指導の充実, 教材の工夫, 専門性の向上)	1-①②③ 2-② 3-③⑤	C		
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活が送れるように環境を整えるとともに, 健康の維持, 体力の向上に努め情緒の安定を図る。	生徒の健康状態や体調の変化について, 連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り, 必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持に努める。	1-② 2-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して保護者や外部専門家, 医療機関等と連携して, 生徒が安全に学校生活を送っていけるような環境づくりを行っていく。
			連絡ノートや外部専門家を活用し, 医療機関との連携を図りながら, 一人一人の障害の特性や実態を把握し, 指導上配慮すべき点, 健康の維持, 情緒の安定, 自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-② 2-①② 4-④	B	
			教室や学習室, 廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い, 生徒が活動しやすい配置や整理整頓に努めるとともに, 事故防止のための車いす操作や教室内での移動等, 危険回避の方法の支援指導を行う。	2-①②③ ④	C	
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気づき, 他者とのかかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに, 社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし, 互いの良さに気づき, 思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。	1-② 3-①②③ 4-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染対策を行いながら生徒同士のかかわりを深められるような活動を設定したり, 密にならない行事のあり方を検討したりしていく。 ・進路や福祉等に関する保護者への情報提供を今後も継続して行っていく。
			進路や福祉関係の情報を教員間で共有し, 保護者への情報提供に努めるとともに, 人とかかわりを広げ, 多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し, 支援する。(遠足, 校外学習, 交流及び共同学習など)	1-② 3-①②③ ④ 4-①②④	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	生徒の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握するとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。	一人一人の障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 2-②	B	・学年会やグループ会等で生徒の様子や体調面に関して情報交換を行ってきたが、個に応じた教材研究や提示の仕方等さらに共通理解を図っていく。
		生徒一人一人の特性に応じた指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や関係機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について職員間で共通理解をしながら進める。	1-①②③ 2-② 3-①	B		
		学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら、日々の授業実践の工夫・改善をする。(略案作成、RPDCAサイクル、合理的配慮、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実、支援の在り方)	1-②③	B		
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活が送れるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上、情緒の安定に努める。	生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持や情緒の安定に努める。	1-②④ 2-①②③	B	・連絡ノートを効果的に活用できていないため、個々に相談内容を確認し、必要な生徒には連絡ノートを活用していくようにする。
		医療相談を行ったり、外部専門家を活用したりしながら、医療機関等との連携を図り、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①② 4-①③④	C		
		教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに、車いすや歩行等自力で移動する際の危険回避の方法を理解して生活できるように支援指導を行う。	1-①② 2-①②	B		
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気づき、他者とのかかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに、個に応じた社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気づき協力して活動に取り組める場面を設定する。	3-①②③ ④⑤	C	・グループが違う生徒同士もかかわりがもてるように学級活動や休憩時間の活用をしていく。 ・進路指導との連携を密にし、進路に関する情報を提供していく。
		進路指導係と連携し、進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、人のかかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。(遠足、校外学習、交流及び共同学習など)	1-② 4-①②④	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1)	生徒の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握するとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。	ア 障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 2-② 4-④	C	・生徒の変容をとらえ、生徒自身と保護者のニーズを踏まえて、次年度への個別の教育支援活動や指導計画の作成のための情報を伝えていく。
		イ 生徒一人一人の特性に応じた指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や関係機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について職員間で共通理解をしながら進める。	1-①②③ 2-② 3-⑤	C		
		ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら、生徒のニーズに合った授業実践の工夫・改善をする。(ICTの活用など)	1-②③	B		
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活が送れるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	ア 生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図り、安全な学校生活と健康の維持に努める。	1-②④ 2-② 3-③	B	・生徒の健康・安全のために、今後も生徒の観察に努め、保護者や養護教諭、看護職員らと連携を図っていく。 ・教材の置き場所がないので、定期的な整理整頓を行っていく。
			イ 連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、体力の向上、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①② 4-④	B	
			ウ 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努め、ヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。	1-① 2-①②	B	
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気付き、他者とのかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに、個に応じた社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、適切な意思表示をすることができる場面を設定する。	3-①②③ ④⑤	B	・表出があいまいな生徒に対する支援方法は今後も工夫を行っていく。 ・保護者から施設の情報を得ることが多かった。施設等の利用のない生徒の保護者に対しては今後情報を発信していく。
			イ 進路指導係と連携し、進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、進路について考える機会を設定する。	1-①② 4-①	C	
			ウ 人とのかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。(遠足、校外学習、交流及び共同学習、地域活動など)	4-②④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連					
各教科の指導	(1)	各教科の学習において，基礎・基本的な内容の確実な定着を図る。	ア 年度初めに，担当者間で評価基準や生徒の実態について共通理解を図る。進捗や理解度，指導方法は学部会や学年会及び適宜開かれるI課程会を通じ指導の充実を図る。	1-①②③	C	C	・今後も自主学習の方法を身に付けさせる支援を行っていく。	
		イ 各教科，授業時数の確保に努める。	1-②	B				
		ウ 定期的に小テストなどを実施したり，達成段階に応じた課題を出したりして，生徒の理解度や達成度を常に把握し，指導方法の見直しや改善を図る。	1-②③	C				
	(2)	個々のニーズに応じた進路選択が行えるよう，適切な進路指導を行う。	ア 道徳の時間に，自己を振り返ったり見つめたりする時間を設けることで自己理解を深めるとともに，学期に数回程度，I課程全員で話し合う時間を設け，考えや価値観を深められるようにする。	1-② 3-③	B	B	・今年度は校内でのみの職業体験であったため，次年度以降は校外での職業体験について検討をすすめていく。	
			イ 「進路を考える週間」では，生徒の実態に応じた職業トレーニング体験を取り入れ，働くことについて考えられるようにする。また，高等部の実習報告会を参観し，高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。	1-② 4-②	B			
			ウ 人とのかかわりを多くもつことができるよう，行事的活動などでは普段と異なる集団での活動機会を設けるようにする。	3-①②④ 4-②	C			
	II	(1)	日常生活の中で必要となる課題に対して，基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで，日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。	ア 身振り手振りや指文字，ICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことによって，基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	1-①②③ 3-①	B	B	・II課程全体でグループ会を行い，生徒の様子について情報共有を行ったが，II課程担当職員が，他学年の生徒について，より連携を図れると良かった。学期に1回程度，II課程担当者会議を設定していけるよう調整する。
			イ 教科ごとに指導者をほぼ固定し，各教科の指導者同士で連携を図ったり，学習の記録を生かしたりして，課題内容や支援方法を精選し，個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。	1-①② 3-②	C			
		(2)	自分の意見を発表したり，人の意見を聞いたりする経験を通して，場に応じた適切なコミュニケーション能力を身につける。	ア 学習内容に応じて柔軟なグループ編成を行い，生徒間で意見を交換したり自分の考えを発表したりする機会を多く設定し，コミュニケーション能力を高めるようにする。	1-①② 4-①	B	B	・自分の考えを教員に伝えてから全体で発表するなど，発表するまでの方法も工夫することで，それぞれが発表しやすい場を作ることができたので，今後も学習内容により，個別あるいは二人ずつ，四人ずつなどの指導形態の工夫を続けていく。
				イ グループ会等を利用して，教員間で生徒の実態について共通理解をし，生徒の身振り手振りや指文字および言葉や思いをできるだけ正確に読み取るように努める。	1-①② 3-①	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善		
各教科の指導	Ⅲ	(1)	ア	検温、酸素飽和度、脈拍、表情などの健康観察を十分に行い、体調の管理・維持に努める。また、家庭や養護教諭、看護職員と情報を共有し、さらに学部会等で連携を図りながら適切に対応する。	1-① 2-①	B	B	・縦割りでの活動が多いため、新入生の緊急対応については特にグループ内でシミュレーションを行っていく。
			イ	外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り、自立活動や日常生活全般において個々の実態に合わせた身体機能の維持・増進に努める。	1-① 2-① 4-④	B		
	(2)	人とのかかわりや、様々な学習活動を通して、感情や意思の表出を促す。	ア	個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境、教材・教具の提示方法などの支援方法について共通理解を図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	1-②③ 2-①	B	C	・出席状況や学習内容に応じて、グループ合同で授業を行うことがあった。かかわりの場面が増えるため、合同で授業を行うことが想定されるグループでは、時間割を合わせるなどして、継続して合同の授業を行っていく。
			イ	五感を刺激する活動や運動、音楽を多く取り入れるなど活動を工夫することで、興味・関心の幅を広げるとともに、快・不快等の自発的な表出を促すために、支援の方法や教材・教具の工夫をする。	1-②③ 2-①	B		
			ウ	他者とのかかわる場面の設定や学習内容、学習形態を工夫する。	1-② 2-①	D		
	特別の教科「道徳」	(1)	生徒の実態を踏まえ、特別の教科「道徳」の時間を主要としながら、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度などの道徳性を養う。	ア	エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法等を取り入れ、体験的に感じ取り、学び合えるような機会を設定する。	1-② 2-② 3-①②③ ④	D	C
イ				学校生活を通して、道徳的価値について考えを深めたり、意見交換したりできるようにする。	1-② 2-② 3-③	C		
(2)		各教科、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を図りながら、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳実践力を育成する。	ア	学校行事での様々な生活経験を通して、生徒の多様な活動場面をとらえ、「相手を尊重する」、「礼儀やマナーを理解する」、「社会の一員としての役割と責任を自覚し、ルールを守る」等の道徳実践力を育成できるようにする。	1-② 2-② 3-①②③ ④⑤ 4-②	C	C	・学校行事や様々な交流が中止、または縮小となったため実践力の育成の場が限定的になってしまったが、新型コロナウイルスに対する社会や人々の生活や行動について考え、社会の一員の自覚を促すことができた。今後も、社会の情勢やニュースを題材を取り入れていく。 ・児童生徒会活動では、Meet機能を使った話し合いや、各学部での活動が多かったが、役割を考えて話し合って決める場や、学期ごとに目標や振り返りを行う機会を設けることができた。今後は活動方法や機会の設定方法を工夫していく。
			イ	地域交流や学校間交流、児童生徒会活動等を通して、社会の一員としての自覚を深めるとともに、自分の役割を考えたり、振り返ったりできる機会を設定する。	1-② 2-② 3-①②③ ④⑤ 4-②	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
特別活動	(1) 集団活動を通して、集団の一員として、協力して活動を行う。	ア 専門委員会や全校集会、学年・学級の活動を通して、他学部や他学年の児童生徒等、様々な人と一緒に活動場面を精選して設定し、各学年、グループで協力して行えるように支援する。	1-② 3-④	B	C ・専門委員会の回数が減ったことや感染症対策のため、全校集会が実施できなかった。今後も感染症対策が続いていく場合も想定しながら、計画的に運営していく。
		イ 話し合い活動や選択の場面を取り入れたり、生徒の実態に応じたコミュニケーション方法を工夫したりすることで、積極的に他者とかがわることができるようにする。	1-②③	C	
	(2) 様々な人たちとの交流を通して、社会性や協調性を育む。	ア 中学部において、交流活動を行う機会を積極的に設定し、実施団体と連携して計画をたて、円滑に行えるようにする。	3-①④ 4-②	B	C ・間接的な交流の回数が多かったため、場の設定やコミュニケーション方法について工夫をしていく。
		イ 様々な人とコミュニケーションを図ることができるよう、生徒の実態に応じた参加方法や交流の場の設定、コミュニケーション方法などを工夫する。	1-②③ 3-①④ 4-②	C	
自立活動	(1) 関係機関との連携を深め、根拠に基づいた指導の充実を図る。	ア 連絡ノートを活用して、医療関係者(Dr,PT,OT,ST等)と情報交換や目標の共有を図り、個々の課題解決や指導、自立活動メニューの充実に努める。	1-①② 2-②	B	C ・関係機関と連携したケースはなかったが、今後も必要な場合にはケース会議の活用や外部機関との連携をすることで、生徒への指導・支援に生かしていく。 ・自立活動相談、小児リハビリテーションネットワーク会議やケース会議等を行うための手順を共通理解できるよう、係と連携し、体制づくりを行っていく。
		イ 生徒のニーズを把握し、自立活動相談、小児リハビリテーションネットワーク会議のケース会議等を活用して関係機関との連携を図り、指導の充実に努める。	1-①② 2-②	C	
	(2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、自立活動の長期的指導の充実を図る。	ア 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を学年や学習グループ等で共有し、個々の課題・実態に合わせた自立活動や日常生活の指導や授業の改善・充実に努める。	1-①② 2-②	B	・外部専門家のPT, OT, STから生徒の実態や取り組みについて助言をいただき、生徒の指導に生かすことができ、教職員の専門性を高めることができた。今後も、引き続き外部専門家を積極的に活用していく。
総合的な学習の時間	(1) 総合的な学習の時間の指導計画の改善・充実に努める。	ア 各教科や道徳と関連付けながら、発達段階や系統性を意識した内容を精選し、指導・計画・授業実践に努める。	1-② 2-②	B	B ・次の段階の活動ができるように引継ぎを行う。 ・次年度も生徒の実態や感染症に配慮し、生徒が意欲的に活動できる活動内容を行っていく。
	(2) 協働的な活動や探究的な活動を通して自己の生き方を考える学習となるよう内容の充実に努める。	ア 学校間交流や花いっぱい活動等を通して、同年代の中学生や地域の方と積極的にふれあい、社会性を身につけられるようにする。	3-① 4-②	B	
		イ 進路を見据えた活動や体験的な学習を設定し、活動を通して自己理解を深め、将来の進路について自ら学び考える態度を育てる。	1-② 4-④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確にふまえ、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	1-②③	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の課題について、定期的に各クラスで情報共有や共通理解を図れるような話し合いの場を設定していく。 専門的な知識や技能を有する教員及び外部専門家の指導・助言の活用を通しての共通の取り組みを深めていく。 課題に対して一定のレベルで共通した支援を継続できるよう共通理解を図りながら支援していく。
			学習活動、自立活動の指導においては、より実態に応じた指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り、手立ての工夫・充実を図る。	1-②	B	
	(2)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力と身体機能の維持・向上を図るとともに、自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。	教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清掃を心がけ、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	2-②	B	<ul style="list-style-type: none"> 学部全体で、教材室の整理整頓をし、もっとうまく活用できるよう、他学年と連携を図っていく。 コロナ禍のなか、密を避けるための対策として、同じメンバーで同じ場所での活動になり、ダイナミックな活動場面を設定しにくかった。今後は、場所等調整が可能な部分を探り、学習の場を設定していく。
			保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。	2-①②	C	
			他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	3-①②③④	B	
	(3)	生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。	1-②	C	<ul style="list-style-type: none"> 進路や卒業後の生活について、保護者がイメージをもてるような情報の提供を継続的に行っていく。
			生徒の実態に応じた、就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより、実態に合った進路想定を導けるように努める。	1-②	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	ア 生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確に把握し、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	1-①②	B	・オンライン授業では、授業後の話し合いや計画を立てる時間を多く設定し、生徒の活動の幅を広げていきたい。
		イ 学習活動、自立活動の指導においては、実態に応じた内容と指導方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り、効果的な支援が行えるようにする。	1-①②③	B		
	(2)	ア 健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力と身体機能の維持・向上を図るとともに、自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。	保護者や関係機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。生徒の健康状態を把握するため、必要に応じてバイタルチェックをして健康管理の意識を高める。	2-①②	B	・登校や欠席連絡が9時以降と遅い保護者に対して、なるべく時間を守ってもらえるように全体で統一事項をもっと明確にすべきではないかと考える。
		イ 生徒の視点に配慮し、教室、グループ室、廊下などの掲示物や整理整頓及び清潔を心がけ、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。	2-①②③	B		
		ウ 生徒同士でかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	1-①②③ 3-①④	B		
	(3)	生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で達成できるよう具体的な取り組み方と手立てを考えていく。	1-② 2-② 4-④	B	・学校の授業(作業)で使用している補助具を実習先でも使用できると良い。
イ 生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり、福祉施設等の情報提供を行ったりすることで、実態に合った進路想定に導けるように努める。			1-①② 4-③④	B		

高等部[学年, 教科・領域] ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善		
3年	(1)	ア	生徒、保護者のニーズを確認しながら個別の指導計画を作成し、自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。進路体験実習を適切に実施し、必要に応じて進路面談などを行い、進路決定ができるようにする。	1-②	B	・保護者が思っている生徒の実態と教員側から見た実態に多少の差がある人もいるため、保護者と共通理解を図りながら指導の充実・工夫を図っていく必要がある。	
		イ	生徒一人一人の目標達成に向け、指導内容や方法について探求し、教員間の共通理解のもとでキャリア教育の充実を図る。	1-①②	B		
	(2)	ア	生徒、保護者のニーズや意見を反映させながら、個別の教育支援計画を作成し、個に応じた指導、手立ての充実を図る。日常の観察などを通して一人一人の実態を的確に把握して指導にあたる。	1-①② 2-①②	B	・外部専門家相談や連絡ノートなどを活用してもよかった。	
		イ	保護者や関係機関と連携を図りながら、一人一人の障害特性や実態把握を行い、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定などについて教員間で共通理解するとともに、より実態に即した指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。	1-①② 2-②	C		
	(3)	自己肯定感を育み、他者とのかわりを楽しむ豊かな心の育成を図る。	ア	学校生活において、生徒の実態に応じた支援を行うことで成功体験を積み重ね、主体的に生きようとする意欲を持たせ、自己選択・自己決定できるような場面を設定する。	1-①② 2-②	B	・行事が難しい状況の中で、学年運動会やお楽しみ会、音楽の演奏会など、学年での交流の機会を作ることができた。 ・Meetを使用して、訪問生と交流をし、会話やクイズを楽しむことができた。
			イ	学級活動や交流、体育祭などをとおして他者とかかわりをもてる機会を設定し、学年の一員として各自がもてる力を発揮できるよう促す。	3-①②④ ⑤	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善		
各教科の指導	I	(1)	ア	生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路指導部や関係機関との連携を図りながら、進路に関する情報提供を行う。また、生徒一人一人の進路課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択できるように支援する。	1-①②	B	C	本人の進路希望を尊重し、保護者の意見や希望を聞きながら進路選択できるように支援する。 また、進路選択の幅が広がるような参考資料の提示を行うICTの活用の充実を図る。
			イ	教科担当職員の連携を図り、個々の実態に応じた支援の充実に努める。また、ICTを適切に活用して学習の支援方法を工夫し、基礎学力の向上に努める。	1-②③	C		
	II	(2)	ア	豊かな生活が送れるよう自分の健康管理に留意するとともに、行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。	2-①② 3-①②③ ④	C	感染症対策のために中止になってしまった行事や、簡素化された活動の中でどのように活躍できる場を設けるのか再検討が必要。	
			イ	卒業後の自立と社会参加に向け、高等部で身につけたい力から指導内容を検討し、内容の精選、実態に合った改善をしながら学期を超えて各教科や単元の関連性を持たせた体験的・かつ実践的な指導内容の厳選や授業改善を図る。	1-①②			A
	II	(1)	イ	他グループと連携を図りながら、話し合いや他者とのかわり、自己決定する場、自分の気持ちの表出等実践的な場面を多く設定したり、繰り返し学習を行ったりすることで定着を図る。	1-②	B	B	・令和4年度に向けて教育課程の見直ししていく。週3回の作業学習を行うことができるか検討をすすめていく。 ・コロナウイルス感染症のため、他のグループとの連携は難しかったがMEETを使ってリモートでのかわりはできた。次年度もリモートを使って、連携していく。
			ウ	場に応じた言葉遣いを身につけるためにロールプレイを多く設定する。また、簡単なサインをや身振り手振りを使ったり、ICT機器を活用したりする等、実態に応じた支援を工夫する。	1-①③	B		
	II	(2)	ア	個別の指導計画で設定した支援内容を学習へ反映させたり、進路指導主事との連携や外部講師、地域の人材を積極的に活用して想定される進路に応じて学習内容を精選したりする。	1-①② 4-②	B	B	・略案を効果的に活用できた。引き続き、略案を活用し、記載内容等も効果的になるよう検討をしていく。
			イ	授業ごとの目標を略案等を活用し、授業ごとの生徒の個々のねらいを明確にしたり、授業の記録を行ったりすることで、次の授業に活かせるよう教員間で連携して評価・改善していく。	1-①②	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	健康の維持・増進に努め、生活のリズムや生活習慣の形成を図る。	ア 目視による健康観察や健康維持のための水分補給、検温、血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。	2-②	A	・特に、学年をまたぐグループは教師同士が生徒の状態を把握するために、連絡帳の確認や登校時の状態などを、引き続き共通理解を図っていく。
			イ 朝の会やトイレ・水分補給等、毎日の生活を規則正しく行い、生徒自身が生活リズムを意識できるようにする。	2-②	B		
			ウ 教師間の情報交換を密に行うとともに、家庭・医療機関においても連絡帳や連絡ノート等で連携を図り、個々の支援に活かすように努める。	1-② 2-② 4-④	B		
	(2)	豊かな心の育成を目指し、人やものとかかわりを通して興味関心の幅を広げ、感情や意思の表出と人やものに主体的にかかわる意欲の伸長を図る。	ア 生徒自らの主体性や意思の表出を図るため、人やものとかかわる時間を十分に設け、場の設定や教材教具の工夫、ICTの活用を図る。	1-②③	B	・朝の会の司会をスイッチ教材やipadを使用して取り組んだが、使用できる台数制限があり定着を図ることは難しかった。今後、ICT教材等の環境整備について、学部・係内で検討をしていく。	
			イ 読み聞かせを通して、興味・関心の幅を広げるとともに、生徒の感情や意思の表出を図る。	3-⑤	B		
			ウ 交流及び共同学習を計画的に行い、変化に対しても見通しをもって安心して取り組めるように生徒の実態に応じて適切な配慮、支援に努める。	2-② 3-①	B		
	(3)	感覚機能や運動機能を高め、A DLの維持・向上を図る。	ア マッサージ、ストレッチ、運動等を行い、身体機能の維持・向上に努める。	2-②	B	・今後も生徒の状態を観察し、その日の体調等に合ったメニューに取り組んでいく。	
			イ 感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。	2-②	A		
	道徳	(1)	社会生活を送るうえで必要とされる道徳的な規範意識や豊かな心、他者とかかわる際のモラルスキルについて考え、自ら実践しようとする意欲と態度を養う。	ア 「高等学校道徳教育指導資料」を参考に各教科及び総合的な探求の時間と連携し、道徳的実践意欲と態度を養うための機会を増やす。	3-①③④	1年C 2年B	・個別(一人)の学習活動であるため、話し合い活動から他の人の意見を聞くような場面が設定できなかった。(高1) ・コロナ感染の予防から、他の学年やグループとの連携が難しかったため、小集団での学習が実施できなかった。(高2) →環境を整えていく必要がある。
イ 他の学年やグループと連携し、小集団でのコミュニケーション活動を設定することで他者の意見を受け入れ、互いに思いやる豊かな心の育成を図る。				3-①③④	1年C 2年C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
特別活動	(1) 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	ア 児童生徒会、委員会活動など他学部の児童生徒との活動や運動会に向けての学年での話し合い活動を積極的に行えるように支援する。	1-①②	1年C 2年C 3年B	・他学年や他学部との活動はmeetを通して行うことができた。 →今後も状況が変わらない場合はPCを活用して話し合い活動を行っていく。
	(2) 集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	ア 他校の生徒や地域の人々との交流活動の際には、障害特性や生徒個々の実態に応じて、活動内容や支援方法について工夫する。	1-② 3-①② 4-②	1年B 2年B 3年B	・オンラインでの交流では、それぞれの学校紹介や、自己紹介を行ったが、画面に映し出されるものにフォーカスしやすく、内容の濃い交流を行うことができた。 ・オンライン交流では、生徒が主体的に活動する場が設けることができた。 ・生徒一人一人が選択する場面などをmeetでの交流においても作ることができた。 →オンライン交流を引き続き行っていく。
	(3) 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。	ア 生徒の障害の状態や特性、生活経験の程度等を考慮し、進路指導や総合的な探求の時間との関連を図りながら指導内容を厳選する。	1-② 3-③	1年B 2年B 3年B	・生徒会活動、委員会活動の他に、学校をきれいにする「お助け隊」を結成し、個々の生徒の実態に応じた活動しやすい清掃用具を用いて、清掃活動を行うことができた。 ・学年クラブとして、各教室ごとに生徒と教員が一緒になり余暇の過ごし方について計画し、実施することで将来の余暇について考える一助とすることができた。 →各学年の実態に応じて、活動内容を計画していく。
自立活動	(1) 適切で根拠ある自立活動や日常生活における指導ができるように、関係機関との連携を図る。	ア 保護者との共通理解をもとに、連絡ノートを通じ医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換し目標設定や課題、指導内容の共有を図る。	1-①④	1年C 2年B 3年C	・自立活動メニュー表については、前年度から引き継がれた内容を基に、適宜改善するなど、生徒の実態にあった指導内容考えながら支援を行うことができた。 ・ソーシャルワーカー、PT、福祉課等関係機関との連携や個々のケース会を行いながら指導にあたることができた。 ・連絡ノートを通じて医療関係者と情報交換を行い、支援に役立てることができた。 →引き続き関係機関との連携を行っていく。
		イ 必要に応じて自立活動相談、医療相談、小児リハネットワーク会議のケース会議、ソーシャルワーカーとの支援相談等を活用しつつ、関係機関との連携を図りながら指導の充実に努める。	2-② 4-③	1年B 2年C 3年B	
	(2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、キャリア教育の視点に基づいた自立活動指導の充実を図る。	ア 医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)の助言をもとに、卒業後の生活を意識した自立活動メニューの作成・活用を促し、指導に生かす。	1-①④ 4-③	1年C 2年C 3年C	・外部専門家相談や医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)の助言をもとにしながら、個々の生徒に必要な自立活動のメニューを作成することができた。 ・校外での進路体験実習においても、必要に応じて各事業所への資料として自立活動メニュー表を活用することができた。 ・外部専門家相談でいただいた助言を自立活動メニュー表の改善に活かすことができた。 →今後も効果的な指導・支援にあたるよう、自立活動メニュー表の内容を検討していく。
		イ 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を自立活動や日常生活における指導に生かし、卒業後の生活を意識しながら、自立活動の授業の改善・充実に努める。	1-①④ 2-② 4-③	1年C 2年B 3年B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
総合的な学習(探究)の時間	(1) 将来の自立と社会参加を見越し、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てるとともに、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方や生き方を肯定的・発展的に考えることができるようにする。	ア 将来の自立につながる体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てる。また、主権者教育については生徒の実態に応じた内容の充実に努める。	1-②④	1年C 2年C 3年C	<ul style="list-style-type: none"> ・下妻二高生とのオンライン交流活動に向け、自分をアピールできるような発表や内容を考えたり、作成したりすることで、マナーや自己分析、自己理解につなげることができた。 ・直接交流ができない中、オンラインを活用して活動を工夫し行うことができた。 ・生徒が考えたり、自分で決定したりできるよう、話し合いの時間や選択する場面を多くつくることができた。 ・交流ではmeetで下妻二高生と交流することができた。行事が減っていく中、お互いに良い交流になった。 →引き続きオンライン交流を行っていく。
		イ 交流及び共同学習や集団活動の場面で、まわりの人との意見交換や交流活動等、他者と協同して課題を解決しようとする活動や、まとめたり表現したりして自分の考えを深める活動を多く取り入れ、学び方やものの考え方を身につけられるようにする。	3-①④	1年B 2年B 3年B	
		ウ 様々な場面で、体験的活動や個人の活躍の場を多く取り入れることにより、互いの良さに気づいたり尊重したりする気持ちを育て、成就感や協同の楽しさを味わえるようにする。	3-①③	1年C 2年B 3年B	

訪問教育〔教科・領域〕

自立活動	(1) それぞれの障害の状態や発達段階を考慮しながら児童生徒の健康や体力の維持・増進に努め、自己の感情や意思を表現しようとする力を育てる。	ア 拘縮予防などのために、顔や手足のマッサージ、関節の曲げ伸ばしなどを、実態に応じて実施する。(必要に応じて外部専門家の意見を参考にする。)	1-①② 2-①②	B	B <ul style="list-style-type: none"> 外部専門家の意見を取り入れられるよう、引き続き保護者に働きかけを行っていく。 光・風・音・感触等、五感に働きかける活動を行い、児童生徒の好きな感覚、不快な感覚を探索することができた。引き続き継続して行っていく。
		イ 五感に働きかけるような教材教具の工夫をすることで、快・不快を含めた自分の意思を、表情や身体の動きで表出することができるように支援する。	1-①② 2-② 3-③⑤	B	